



みんなで水運びのお手伝い。



食糧は麻袋での配給。



家庭菜園にてほうれん草の収穫。



ピースウィンズ・ジャパン現地レポート

難民キャンプでの生活 -日常が終わることを願って-

アシスト南スーダン!

今、世界でもっとも多くの国内避難民・難民を抱える南スーダン。その現状が日本に伝えられる機会は少なく、知るすべも限られている。未知の国・南スーダンで何が起り、今どうなっているのか? タウトク編集部では、NGOピースウィンズ・ジャパンの協力により、その現実の姿を伝えていきます。支援活動が続ける同スタッフの奮闘のレポートを紹介しつつ、南スーダンが抱える問題を少しずつひもとき、少しでも身近な出来事だと感じられるようにしたい。

株式会社メディコムでは、読者の皆さんにタウトクを1冊(350円)購入いただくにあたり、その約1%である3円を、南スーダンをはじめアフリカの復興支援のために送金します。

「支援している」という高みに立った目線ではなく、積極的に関わり合いをもつことで現地の様子が気になるようになり、やがて世界で起っているいろんな紛争や悲劇と、自分たちは決して無縁ではないことを肌で感じるための「3円」だと思っています。ぜひこの1%運動をご理解いただき、本誌連載にご注目ください。

PWJの携帯サイトはこちら!



世界各地で支援活動が続けるスタッフからの「現地活動レポート」、最新のNEWSなどの情報が携帯からチェックできるようになりました! 左のQRコードからアクセスしてみてください!
<http://www.peace-winds.org/m/>

タウトクでは毎月、南スーダンの国内避難民・難民支援事業へ送金した金額=タウトクの販売部数×3円を読者のみなさんにお知らせします。

タウトク3月号の販売部数

3,354部×3円=19,062円

を支援金としてPWJを通じ南スーダンの国内避難民・難民支援事業に送りました。

ご利用明細票	
お名前	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
お住所	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
お電話番号	03-1234-5678
お取引先	株式会社メディコム
お取引先住所	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
お取引先電話番号	03-1234-5678
お取引先業種	出版
お取引先代表者	代表取締役 山田太郎
お取引先役職	代表取締役
お取引先部署	編集部
お取引先担当者	山田太郎
お取引先メールアドレス	tanaka@medicomm.com
お取引先FAX番号	03-1234-5678
お取引先銀行	三菱東京UFJ銀行
お取引先支店	千代田支店
お取引先口座番号	12345678901234567890
お取引先口座名義	株式会社メディコム
お取引先口座種別	普通預金
お取引先口座開設日	2019年01月01日
お取引先口座残高	10,000円
お取引先口座凍結日	なし
お取引先口座凍結理由	なし
お取引先口座凍結解除日	なし
お取引先口座凍結解除理由	なし
お取引先口座凍結解除日	なし
お取引先口座凍結解除理由	なし

peace winds JAPAN

月刊タウン情報クシマ

タウトク

medicomm inc

株式会社メディコム

月刊タウン情報クシマ編集部

ケニア北西部、南スーダンとの国境沿いに位置するカクマ難民キャンプ。ここでは15を超える国々から集まった18万5000人以上の難民が生活しています。その内の約半数、9万3000人は南スーダンから辿り着いた人々です。彼らは普段どんな生活をしているのか、尋ねてみました。

Aさん(三十代・男性)

「キャンプ内の一区画のリーダーとして、難民と国連・NGOの橋渡し役をしていることが多いかな。様々な団体が支援してくるけど、その時に難民側の希望・意見をまとめて支援団体と打合せをすることもあるし、団体がキャンプ内で活動しやすいように色々と手配をすることもあるね。他の日はソーラーパネルを使った携帯電話の充電ビジネスをしているよ。キャンプ内の家(シェルター)には電気が通ってないから、需要はあるね。」

Nさん(四十代・女性)

「今日は国連機関の食糧配給日だから受け取りに行ってきたところ。月に一度、小麦粉・トウモロコシ、豆、油などが配給されるのよ。この時に石鹸も貰えるし、別の日には調理用の薪が支給されるの。ただ、二年前までは月二回の食糧配給だったのが一回に減ってしまっ、全然足りないのよ。これから給水所に水汲みに行くわ。午前中の四時間程度しか水が出ないから混むのよね。あとは家の近くで野菜を育てているわ。」

Kさん(二十代・男性)

「毎日学校に通って英語を勉強しているよ。お金を稼ぐためにキャンプ内の警備員もしている。日曜日の午前中は教会に行って、午後はサッカー。キャンプ内でもサッカーは大人気で、そこかしこにボールや、布を丸めて作ったボールもどきを蹴っている子どもがいるよ。キャンプ内にはヨーロッパのサッカー中継を見ることができるお店もあるから嬉しいね。」

Sさん(三十代・女性)

「母親が始めた店を継いだの。ちょっとした食料品や調味料、プラスチックの食器などを売っているわ。キャンプ内には服屋、床屋、肉屋、靴の修理屋、食堂などがあって、たくさん商売がされているのよ。他にもマットレスや化粧品、最新の携帯電話を売っているところもあるわ。カクマのタウン(キャンプ外にある中心地)を見たことがあるけど、キャンプ内の方が品揃えが豊富ね。」

キャンプ内の様子を思い描いていただけでしょうか。

カクマ難民キャンプは1992年に開設され、今年で25年目になります。キャンプでの生活しか知らない人、人生の大半をキャンプで過ごしている人も多く、ここでの生活が日常となっている方がたくさんいます。しかし、難民キャンプでの暮らしは本来、「非日常」であるはず。難民キャンプで生活を営むという「日常」が一刻も早く終わりを告げ、南スーダンに帰って本来の「日常」を取り戻せる日が来ることを強く願うばかりです。

南スーダンに戻る際には期待と共に不安もあることでしょう。でも、戻った先でもカクマで時間を共にしたPWJが活動していたら、少しは安心してもらえるかもしれません。PWJの存在がそんな一助となるよう、今後も避難先のケニアと帰還先となる南スーダンの両国で支援を継続していきます。

カクマ駐在員 富樫 良輔



家に案内してくれる難民キャンプの子どもと筆者。

*本事業は、ジャパン・プラットフォームからの助成金や個人・法人のみさまによる寄付金により実施しています。